袋井市学びの未来創造プラン (学校教育情報機器整備に係る各種計画)

国の方向性

GIGA 第1期 GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の整備は、令和3年度末までに完了
 課題 1.端末利活用の地域格差 2.ネットワーク環境 3.校務事務におけるクラウド活用

GIGA 第2期 令和6年度(2024年度)から令和10年度(2028年度)に都道府県での共同調達で更新(袋井市:2025年12月~2030年11月末)
 目指す姿 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた端末利活用の実現

GIGA第2期基金からの主な補助要件
 ・共同調達による端末の調達
 ・各種計画(端末の利活用、校務DX、端末整備・更新、ネットワーク整備)

GIGA第2期基金からの主な補助要件: 共同調達による端末の調達、各種計画(端末の利活用、校務DX、端末整備・更新、ネットワーク整備)の策定

はじめに

本プランは、「GIGA第2期」に向けた学習用端末の整備・更新に際し、市町村に対し、学習用端末の利活用やそのための必要な整備等を内容とする計画を策定・公表することが求められていることから、今般、袋井市の「学びの未来 創造プラン」として策定したものである。また、本市の「第2次教育情報化推進計画」を進めるため、ICTを活用して目指すべき学びの姿を明らかにするとともに、学習用端末の整備・更新やネットワーク整備及び校務DXに係る具体的な取組を内容としたものである。

なお、本プランは、国の作成要領に基づき、①1人1台学習用端末の利活用に係る計画、②校務DX計画、③学習用端末整備・更新計画、④ネットワーク整備計画の4編に分けて、作成している。

I 1人1台学習用端末の利活用に係る計画

1人1台端末の活用方策

「予測困難な時代」の中で子どもたちが、自ら課題を見つけ、解を導き出し、実行する「生きる力」を身につけることが重要。本市では、子どもたちが、対話や議論を通じて自分の考えを深め、表出を繰り返し行うことで「考える力」を育む。実際の経験や体験を伝えたり、「対話・議論」や納得解(個のまとめ)の表出したりする中で、個々の状況に応じて、ICTを積極的に活用する。

(1)「考える力」を育成するためのICT機器の活用

全ての授業等において、「発達段階における学びの目標と具体的な姿」を踏まえ「リアルな体験」や「人との関わり」を大事にしながら、ICT機器を使うねらいを明確に描き、「個別最適な学び」だけでなく、「協働的な学び」へとつなげる授業を展開。これにより、対話・議論を活性化させ、納得解の表出(個のまとめを書くこと)を積み重ね、子どもたちの「考える力」を育てていく。

(2)すべての小中学生の学びの保障と学習支援

- ア 不登校児童生徒が学びの場や社会とつながる機会を提供する。
- イ 外国人児童生徒の学びを保障し、日本語の学習に取り組むことができるよう環境を整える。
- ウ 特別な支援を必要とする児童生徒の特性を踏まえ、最適な学習の提供に努める。

発達段階における学びの目標と具体的な姿

発達段階	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校
目標	自分の考えや思いを分かりやすく伝えることができる。	自分の考えや思いを整理することができる。	様々な情報を整理して活用し、自分の考えや思いをまとめることができる。	自分に必要な学びを選択・決定し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
具体的な姿	写真や動画を撮影することとおして、自分の考えや思いを広げ表現している。	自らの興味・関心と理解度に応じ、AI学習ドリル等を使って学習を進めている。	学習ツールを用い、自分の考えと他者の考えを比較することで、違いやそれぞれのよさに気付き、自らの考えを再構成している。	写真や動画を撮影することとおして、自分の考えや思いを広げたり深めたりしている。 自らの興味・関心と理解度に応じ、AI学習ドリル等を使って学習を進めている。
個別最適な学び				
協働的な学び				
学習ツール				

袋井市学びの未来創造プラン (学校教育情報機器整備に係る各種計画)

II 校務DX計画

袋井市が校務DXを推進する観点

- ・ 業務の効率化により子どもと向き合う時間の確保による教育のさらなる充実
- ・ 時間外勤務の削減や校務事務のゆとりを増やし、教職員自身のウェルビーイングの実現
- ・ デジタル化によるセキュリティの向上と、情報セキュリティの構築

課題の見られた項目

- ・ 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っている
- ・ 学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れている
- ・ 業務にFAXを使用している
- ・ 学校から職員に紙での提出を求めている書類がある など

今後の取組

- ・ クラウドサービスの活用
- ・ FAX及び押印の見直し (原則廃止)
- ・ ペーパーレスの一層の推進
- ・ 研修や面談のオンライン化

III 学習用端末整備・更新計画

	R 6 年度 (2024)	R 7 年度 (2025)	R 8 年度 (2026)	R 9 年度 (2027)	R10年度 (2028)
児童生徒数	7,532人	7,366人	7,338人	7,158人	7,066人
整備上限台数 (上記×115%)	8,661台	8,470台	388台	181台	75台
整備台数 (予備機除く)	0台	7,366台	0台	0台	0台
基金事業による 整備台数	0台	7,366台	0台	0台	0台
累積更新率	0%	100%	101%	105%	108%
予備機整備台数	0台	684台	0台	0台	0台
基金事業による 予備機整備台数	0台	684台	0台	0台	0台
整備総台数	0台	8,050台	0台	0台	0台
予備機整備率	0%	9.3%	0%	0%	0%

学習用端末についてはchromebookに統一。通信回線についてはWi-Fi回線利用に統一

IV ネットワーク整備計画

ネットワーク速度 確保の状況

区分	総数(校)	速度確保数(校)	割合(%)	確保できていない学校数
小学校	12	9	75	3
中学校	4	2	50	2
合計	16	11	68.8	5

※ R6.6 簡易帯域測定結果より

必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

- (1)課題特定のスケジュール
→令和7年(2025年)9月を目途に課題を特定
- (2)改善スケジュール
→令和7年度(2025年度)中に改善方法を決定
- (3)該当課題の解決の方法と実施スケジュール
→令和8年度(2026年度)以降から随時対策を講じる見込み